

## 2 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

### (1) モデル的事业 (特色あるプログラム・実践研究事业)「アクティブ・ジオキャンプ」

#### 1 趣旨

自然体験活動や宿泊体験を通して、青少年が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、体を動かす遊びや運動を継続的に行うことができるようになることを目的として実施する。

#### 2 期日

令和5年7月23日(日)～8月5日(土)

#### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136-1)

#### 4 参加者

18名(小学生10名、中学生8名)

#### 5 主な活動内容

##### (1) 磐梯山噴火について(講義)

磐梯山噴火記念館館長の佐藤 公氏を講師として、磐梯山の歴史についてお話をいただいた。参加者は噴火によって大きな災害が起きたことや、噴火によって豊かな自然環境が育まれたことを学んだ。水を張った水槽を用いた噴火の実験などを通して、噴火について理解を深めることができた。



##### (2) 五色沼ハイキング(活動)

磐梯山ジオパーク協議会の田島裕子氏にガイドをお願いして、五色沼の散策を行った。参加者は前日の磐梯山の噴火についての講義の内容を思い出しながら、噴火の影響によってできた磐梯山の姿や美しい色の沼を観察することができた。



##### (3) 栄養講座(講義・実習)

郡山女子大学准教授の亀田明美氏を講師として、バランスの取れた食習慣の大切さや郷土食についてお話をいただいた。参加者は小学校や中学校で学習した五大栄養素や様々な食品を食べることが体に良いことを学んだ。実習では参加者がにんじんや里芋を切り、貝柱や竹の子、豆麩などを入れて、会津地方の郷土食である「こづゆ」を作った。初めて「こづゆ」を食べた参加者も多く、「初めて食べたけど、おいしい。」等の感想が聞かれた。



##### (4) 収穫体験(活動)

のうば(農家)での野菜の収穫、猪苗代道の駅前いちご園でのいちご収穫、宇川ブルーベリー園でのブルーベリー収穫を行った。

農家の土屋勇輝氏を講師として、野菜を育てる工夫や努力、会津伝統野菜などについてお話をいただいた。参加者は通常のかゅうりと会津伝統野菜の「余蒔きゅうり」の違いなどを実際に確かめながら収穫した。



いちご園ではミツバチを飼育して受粉に役立てていることや温度と水の管理が大切であることを学び、おいしいいちごの見分け方などを施設の職員から教えていただいた。参加者は「猪苗代プレミアム」「よつぼし」「ペチカほのか」「星のしずく」の4品種を収穫して、品種による見た目や味の違いを知ることができた。



ブルーベリー園では、ブルーベリーの品種や害虫対策などについて施設の職員から説明していただいた。参加者は木によってブルーベリーの味が異なることを、収穫を通して学ぶことができた。



#### (5) 野外炊飯（活動）

毎日の夕食は野外炊飯棟で参加者が準備した。主にかまどに薪を入れて火を起し、羽釜でご飯を炊いた。はじめは火を起したり材料を準備したりするのに時間がかかったが、日を迫うごとに時間が短縮され、手際よく夕食の準備をすることができるようになった。収穫した野菜をみそ汁に入れたり、焼肉を作ったりし、自分の手で収穫したものを自分で調理して食べる喜びを感じることができた。



#### (6) 登山（活動）

はじめに標高約1200mの雄国山に登った。研修指導員の本多勝男氏に講師をお願いして、参加者は登山道の植物や動物についての説明を聞きながら登山することができた。

次に標高約1400mの赤埴山に登った。研修指導員の渡部修一氏に講師をお願いして、参加者は赤埴山の魅力や磐梯山の爆裂壁について解説を聞きながら登山することができた。また、猪苗代スキー場のリフトを利用し、雄大な猪苗代湖を一望することもできた。



#### (7) カヌー・湖水浴（活動）

桧原湖沿いにある松原キャンプ場でカヌー体験と湖水浴を行った。参加者は2人1組でカヌー1艇に乗り、お互いに声をかけ合って協力してパドルを漕いだ。時折強い波があったが誰も転覆することなく、磐梯山や湖面に生える植物を眺めながら漕ぐことができた。湖水浴ではターザンロープを使って水面に飛び込んだり、みんなで一緒に浮かんだりしながら、噴火によってできた桧原湖の自然の魅力を全身で感じることもできた。



#### (8) 猪苗代湖一周チャレンジ（活動）

はじめに交流の家を自転車で出発し、郡山市少年湖畔の村までの約40kmを元気よくペダルを漕いで目的地である湖畔の村に到着することができた。途中の休憩や昼食では、株式会社リオン・ドールコーポレーション様から提供していただいたスポーツ飲料やゼリー、お弁当を食べて体力を回復させながら、元気よく自転車を漕ぐことができた。



次に郡山市少年湖畔の村を徒歩で出発し、交流の家まで約25kmを歩いた。この日の昼食でも株式会社リオン・ドールコーポレーション様からいただいた物品を、同じく協力いただいている株式会社Roots様の猪苗代湖畔の施設で、湖を目の前にしながら食べて、無事に交流の家へゴールすることができた。



### (9) シャワークライミング (活動)

小野川不動滝駐車場から小野川に入り、岩場や川の中をゴールの不動滝に向かって遡行した。参加者は川に入る前にバディを組み、時には腰まで水につかるような水深のところや岩がぐらつくようなところでは、注意し合ったり励まし合ったりしながら進んだ。ゴールでは滝の水しぶきが激しく、大自然のシャワーを浴びることができた。



## 6 事業の成果と課題

### (1) 成果

- ・栄養講座や様々な収穫体験を通して、参加者の食に対する意識を高めることができた。また、新聞紙と薪を使って火を起す方法や、ご飯を炊く方法を身につけることができた。
- ・登山やカヌー、猪苗代湖一周などの様々な運動体験を通して、参加者は運動の楽しさや運動量（消費カロリー・歩数）について知ることができた。また、「今度は磐梯山に登りたい。」といった参加者の声にもあったように、新たな運動に挑戦したいという意欲を高めることができた。
- ・毎日、テントを拠点に活動した。自分たちでテントを組み立てたり、乾かしたり、収納して再び組み立てたりするなど、参加者のテントを扱う技能を高めることができた。
- ・飲食物を提供いただいた株式会社リオン・ドール様、毎日の野外炊飯で使用する薪を提供いただいた株式会社Roots 様、磐梯山噴火記念館館長や五色沼ハイキングのガイドを派遣して下さった磐梯山ジオパーク協議会様にご後援、ご協力をいただいたおかげで、14 日間の事業を実施することができた。

### (2) 課題

- ・多くの活動を入れすぎたため、日によっては参加者にとってゆとりのない日程だったこともあった。各活動ごとに参加者のアンケートをとっているのので、アンケート結果をもとに活動を改善、精選していきたい。
- ・自転車で転倒してけがをした参加者がいた。また、酷暑の中、収穫体験や猪苗代湖一周で自転車を漕ぐのは熱中症の心配があった。次年度は自転車を使用せずにできることを検討したい。

## 「アクティブ・ジオキャンプのフォローアップキャンプ」

### 1 趣旨

自然体験活動や宿泊体験を通して、青少年が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、体を動かす遊びや運動を継続的に行うことができるようになることを目的として実施する。

### 2 期日

令和5年10月15日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

25名（アクティブ・ジオキャンプの参加者10名とその家族15名）

### 5 主な活動内容

#### (1) おかずコンテスト結果発表（講義）

アクティブ・ジオキャンプ参加者がキャンプ中に栄養や食材について学んだことを生かして作ったおかずを事前に提出し、それを職員が紹介した。参加者は審査を依頼してあった郡山女子大学の亀田准教授のコメントを聞いた。

#### (2) 野外炊飯（活動）

おかずコンテストで最優秀賞に選ばれた「はんぺんのチーズ肉巻き」を班ごとに作った。参加者はアクティブ・ジオキャンプで培った火起こしの技術を発揮して、調理活動に取り組んだ。どの班も手際よく調理活動を進め、「もちもちしていておいしい。」「ご飯にとっても合う味」と食べた感想が寄せられた。

#### (3) 運動習慣発表会（活動）

アクティブ・ジオキャンプ後に取り組んでいる運動について、参加者が一人ずつ発表した。「今まで以上に部活動がんばるようになりました。」「自転車であちこちに行くようになりました。」といった取り組みが紹介された。

#### (4) ボッチャ（活動）

アクティブ・ジオキャンプで一緒の班だった参加者同士でチームを作り対戦した。ルールが容易なため、すぐにルールを理解し、楽しそうに活動していた。



### 6 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 亀田准教授から、参加者一人一人のおかずの栄養についてコメントをいただいた。食育に関するアンケートに「栄養のバランスが整っていてよかった。」「調理方法や工夫がよかった。」と記載があったことから、参加者は栄養や調理についてさらに関心と理解を高めることができたと思われる。
- ・ 運動習慣アンケートの「毎日、なるべく運動やスポーツをして体を動かすことを心がけている。」という項目について、「当てはまる」と回答した割合はジオキャンプ開始前 77%、ジオキャンプ最終日 83%、フォローアップキャンプ時 84%だった。このことから、体を動かす遊びや運動を継続的に行う意識が高まった状態を維持できていると考えられる。

#### (2) 課題

- ・ 運動習慣アンケートの「毎日、なるべく運動やスポーツをして体を動かすことを心がけている。」という項目について、3回とも「あまり当てはまらない」と回答した参加者が見られた。このような参加者にはどのような手立てが有効か、様々な案を考えていかななくてはならない。

## (2) 課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ）

### 「磐梯オータムキャンプ」

#### 1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。

#### 2 期日

令和5年9月3日（日）

#### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

#### 4 参加者

18名（小学生4名、中学生6名、高校生1名、保護者2名、団体ボランティア2名、団体スタッフ3名）

#### 5 主な活動内容

##### (1) 野外炊飯

参加者の多くが野外炊飯をするのは初めての体験であったが、班ごとに役割分担をして道具や材料を運び、意欲的に調理に参加しようとする姿が見られた。かまどの係になった参加者は、安全に留意しながら薪をくべることができ、それを指導者に称賛されたことで、自信をもって活動に取り組むことができた。また、ボランティアと協力しながら活動することを通して信頼関係を築くこともでき、その後の活動によりよい形で移行することができた。団体代表者からは「野外炊飯は難しいと思っていた。子供たちがこんなに積極的に活動するとは思わなかった。」という感想が寄せられた。



##### (2) ニュースポーツ（モルック）

簡単なルールで誰でも楽しむことができるモルックに取り組んだ。最初は、たくさんのスキttlを倒すことに夢中の参加者が多かったが、次第に狙いを定めて投げたり、投げ方を工夫したりする楽しさを見出して、より一層モルックを楽しむことができた。勝敗にこだわるあまり、落ち込んでしまう参加者も見られたが、参加者同士が励ましの声を掛け合いながら、ゲームを継続することができた。友達が投げ終わった時に、スキttlを元に戻す手伝いをしたり、「あと6だよ！」などの声をかけたりして、互いに交流を楽しみながら活動に取り組む様子が見られた。



#### 6 事業の成果と課題

##### (1) 成果

朝は緊張した表情の参加者が多かったが、活動を進める中でボランティアと打ち解け、場所にも慣れたりして、笑顔が見られるようになった。特に野外炊飯では、野菜を切る仕事やかまどの仕事に進んで手を挙げて取り組む意欲的な姿が見られた。また、そのような姿を指導者やボランティアに称賛されたことにより、参加者は自信をもって前向きな気持ちで活動することができた。

##### (2) 課題

- ・参加者の特性等について連携機関と情報を共有しながら、適切な配慮のもと活動が展開できるようにしていく必要がある。
- ・ねらいを達成できたかどうか客観的に把握するために、事業前と事業後に、自己肯定感に関する項目、基本的な生活習慣に関する項目についてアンケートをとるなど工夫したい。

## 「子ども食堂スノーキャンプ 2024 in 磐梯山」

### 1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育む。

### 2 期日

令和6年1月6日（土）～8日（月）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

32名（小学生22名、中学生10名）

### 5 主な活動内容

#### （1）五色沼スノーシューハイキング

研修指導員のもと、五色沼をスノーシューでハイキングした。参加者からは「みんなと助け合って、よい経験ができた。」「スノーシューが重くて疲れたけれど、動物の足跡が見られたりして楽しかった。」等の声が聞かれた。距離別コースを設定し、参加者が自主的に選択できるようにしたことで、参加者は各々のレベルに応じた達成感を味わうことができた。



#### （2）雪灯ろう作り・たき火・マシュマロ焼き

参加者は地形を生かしたり、道具を用いたりして、班ごとに思い思いの雪灯ろうを作ることができた。そこにロウソクを灯し、幻想的な雰囲気の中、たき火をしてマシュマロ焼きを実施した。参加者からは「雪をめったに見られないし、遊べないからとても楽しかった。」「たき火が暖かった。」「灯ろうのロウソクに火がつくと、とてもきれいだった。」等の声が聞かれた。



#### （3）自主性を大切にした活動（雪遊び、体育館でのスポーツ等）

前日のミーティングで場所と道具、可能な活動の中から、各自がどのような活動をして過ごしたいか話し合い、参加者の自主性を大切にした活動を行った。参加者からは「楽しくて友達がたくさんできてうれしかった。」「ねこのかまくらを作って、とてもよくできてうれしかった。」「大人と子供に分かれて雪合戦をしたのが楽しかった。」等の感想が聞かれた。



### 6 事業の成果と課題

#### （1）成果

アンケートから「バスケットボールなど色々な活動を選んでできて楽しかった。」「千葉と福島の温度の差が大きく、こんな量の雪は見たことがないので、とてもドキドキした。」「初めての人と仲良くなり、協力していろんなことに挑戦できてよかった。」といった感想が見られた。これらから、共に活動する仲間を受け入れて尊重しようとする態度や、自分自身で活動を選択して実施することの心地よさ、失敗を恐れずに挑戦しようとする前向きな気持ちを味わうことができたと思われる。

#### （2）課題

- 参加者の特性等について連携機関と情報を共有しながら、適切な配慮のもと活動が展開できるようにしていく必要がある。
- ねらいを達成できたかどうか客観的に把握するために、事業前と事業後に、自己肯定感に関する項目、基本的な生活習慣に関する項目についてアンケートをとるなど工夫したい。

### (3) 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿「地域探究プログラム」

#### 1 趣旨

オリエンテーション合宿を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成する。また、地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

#### 2 期日

令和5年4月28日（金）～令和6年1月27日（土）（計8日）

#### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家  
福島県立猪苗代高等学校  
磐梯山  
磐梯山噴火記念館



#### 4 参加者

57名（高校生57名）

#### 5 主な活動内容

##### (1) 噴火災害講話・噴火実験（講義）

磐梯山噴火記念館の館長から磐梯山噴火における災害の特徴や対策についての講話を聞いた。また、ジオラマを用いた実験から、噴火した際の被害が及ぶ地域などについて学んだ。さらに災害だけではなく、噴火がもたらす自然や地形、産物などの恵みの部分についても話を聞いた。

##### (2) 震災講話・クロスロード（講義）

避難所運営時に実際に起きている課題や現状について聞いた。また、実際に起きた課題を題材に解決策をグループで考えて発表する活動に取り組んだ。避難所運営だけでなく、日ごろの備えが防災につながることを学んだ。

##### (3) HUG実践・見学（演習）

猪苗代高校3年生の進行で参加者が実際に通っている高校の図面を用いたHUG（避難所運営ゲーム）に取り組んだ。HUGの実施後には、実際に避難所運営経験のある自衛隊職員（講師）によるHUGを見学した。見学後には運営についてグループで感じたことや困ったことなどを自衛隊職員に質問することで、避難所運営について考えを深めた。

#### 6 事業の成果と課題

##### (1) 成果

- ・「グループで協力して解決するために工夫して活動できた」という感想から避難所運営という非日常的な課題に対しても向き合うことができていた。
- ・オリエンテーション合宿を全学年で実施したことで上級生がリーダーシップを発揮し、下級生は自身の役割を果たそうとするなど主体的に活動に取り組んでいた。
- ・各活動で積極的に話し合う姿や学び合う姿勢が見られた。

##### (2) 課題

- ・郷土や自然に対する愛着を持つよりも緊急時の行動など防災意識の向上が大きかった。地域の魅力を感じられるように地域で活動する方とかかわる機会を増やすなどの工夫があるとよいと感じた。

#### (4) 社会の要請に応える体験活動等事業「イングリッシュキャンプ」

##### 1 趣旨

体験活動を通して、青少年が英語でコミュニケーションをとる楽しみを体感し、もっと英語を学びたいという意欲を持つことを目的に実施する。

##### 2 期日

令和5年10月28日(土)～29日(日)

##### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1)

##### 4 参加者

36名(小学生36名)

##### 5 主な活動内容

###### (1) イングリッシュオリエンテーリング

参加者は、館内に設置された20問の問題を探しながら、講師や友達と協力し合って解く姿が見られた。参加者からは「班の人と協力しながら考えたり、わからない問題はわかる人にヒントをもらったりしてよかった。」「問題が英語で書かれていたけれど、先生や友達が教えてくれたので楽しくできた。」等の声が聞かれた。



###### (2) キャンプファイヤー

参加者は英語の歌を歌ったり、歌に合わせて踊ったり、体全体を使って英語を楽しむことができた。また、たき火を囲んでスモア作りを行い、外国の文化に触れたり、興味をもったりすることができた。参加者からは「みんなで踊るのが楽しかった。」「みんなで踊ったり、歌ったりマシュマロを焼いて食べたりして、話が進んで楽しかった。」等の声が聞かれた。



###### (3) ボッチャ(ニュースポーツ)

SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」に迫るため、全ての人と一緒に楽しめるスポーツとしてボッチャを実施した。「Blue ball」「Red ball」「Good job」など自然と英語を用いながら、楽しそうに取り組む様子が見られた。参加者からは「体の不自由な人も遊べるからいいと思った。」「プレイ中にみんなで協力できてうれしかった。」等の声が聞かれた。



##### 6 事業の成果と課題

###### (1) 成果

- ・「明るく優しく丁寧に教えてもらえて安心して活動できた。」「わからない英語があったらすぐに教えてくれてとてもうれしかった。」といったアンケートの感想から、講師を班に固定することで、一層交流が深まり、安心して活動できる環境づくりにつながったことが分かった。
- ・「英語を楽しく学べた。」「前は英語かきらいだったけど、好きになった。」といったアンケートの感想から、活動を通して英語に触れることでもっと学びたいという意欲の高まりが見られた。

###### (2) 課題

- ・実施後の講師とのふり返りで、講師を担当の班に固定することでの利点も多くあったが、もっと多くの参加者とも交流を深めたいという意見があった。活動の内容等を工夫するなどして、改善をしていきたい。



## (5) 地域ぐるみ事業「リオン・ドールキッズプロジェクト」

### 1 趣旨

野菜や果物などの収穫体験を通して、家庭における食育を推進する。

### 2 期日

令和5年8月20日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）  
宇川ブルーベリー園

### 4 参加者

25名（大人8名、小学生10名、未就学児7名）

### 5 主な活動内容

#### (1) 収穫体験

宇川ブルーベリー園を会場に野菜と果物の収穫体験を行った。農園の方から野菜や果物の品種や育ち方、収穫の仕方について話を聞きながら収穫体験を進めた。ミニトマト、ピーマン、アスパラ、ブルーベリーなど様々な野菜や果物を収穫することができた。参加者からは、「野菜がどのように育つのかを見られて勉強になった。」などの感想が寄せられた。



#### (2) ピザ作り

収穫した野菜や果物を使ってピザ作りを行った。参加家族ごとにかまどを使って火おこしから行った。参加者からは、「家にいると全員で料理をすることがないので楽しかった。」「火おこしは難しかった。初めてのピザ作りは好きな具材を自分で切つてのせておいしくできた。」などの感想が寄せられた。



### 6 成果と課題

#### (1) 成果

「家にいると全員で料理をすることがないので楽しかった。」「家族で協力して作ることができた。」という感想から、収穫体験とピザ作りが家族のコミュニケーションを深める場となったり、野外体験活動の契機となったりした。

リオン・ドールコーポレーションと提携することで、リオン・ドール店舗内にポスターを設置して、多くの人に広報することができた。また、これまで磐梯青少年交流の家の利用がなかった方に交流の家でできる事業を知ってもらう機会となった。



#### (2) 課題

ボランティアと参加者とが関わる場面の多くが火おこしの補助となつてしまい、ボランティアも「子供たちとの触れ合いが多いものに参加したい。」と振り返りにまとめていた。今後、家族単位で参加する事業におけるボランティアと子どもたちとの関わる場面を事前に想定し、当日どのように子供たちに関わってほしいのかを明示できるようにしていく。



## (6) 地域ぐるみ事業「スマイルばんせい（秋）」

### 1 趣旨

家族で体験活動を楽しむことを通して、親子でのコミュニケーション促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年10月22日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

163名（大人80名、小学生51名、未就学児32名）

### 5 活動内容

福島県内の小学1～2年生を含む家族を対象に、たき火体験、金魚すくい、ばんせい探偵団、書道体験、書道パフォーマンス、読み聞かせワークショップ、ボルダリング、テント設営体験、ニュースポーツの8つの体験ブースを設置した。書道体験・書道パフォーマンス、読み聞かせワークショップは、講師を招聘し、参加者へのアドバイスを行ったり、参加者と一緒に活動したりした。ばんせい探偵団は、スマイルばんせい開催後に研修プログラムにすることを見据え、本事業にあわせて新しく実施するようにした。その他には磐梯青少年交流の家にある設備や備品を使い、たき火体験、ボルダリング、テント設営体験、ニュースポーツのブースを設置して、それぞれの体験を自由に行き来して楽しむことができた。

### 6 成果と課題

#### (1) 成果

たき火体験ではキンドリングクラッカーを使用し、参加者が薪割りから体験できるようにしたことで、親子で協力しながら薪割りとたき火体験に取り組む姿が見られた。また、「子供たちが安全に楽しむことができ、満足した。」という感想もあった。

書道体験・書道パフォーマンスと読み聞かせワークショップでは、直接講師からの専門的なアドバイスをもらったり、話を聞いたりしたことで、「初めて書道をして、興味をもってくれるきっかけとなった。」「絵本の読み聞かせの参考になった。」などの感想もあり、親子で一緒に楽しみ、満足してもらうことができた。

ばんせい探偵団は参加者の7割程度が体験し、肯定的評価が96%であった。「子供も大人も夢中でイラストを探しました。」「親子で協力して問題を解く楽しさを感じました。」などの感想が寄せられた。

これらのことから、それぞれのブースが親子でのコミュニケーションの機会を促す契機になったことが伺える。また、8ブースを設置したことで、各ブースで体験する人数が分散され、参加者が一つの体験活動に十分な時間を確保することができた。



#### (2) 課題

書道体験と読み聞かせワークショップは、それぞれで体験時間と参加人数を限定したため、時間の重なりが出てしまい、どちらか一方のブースにしか参加できなかった人がいた。今後はできる限り体験時間の重なりが出ないように調整したり、秋と冬にあるスマイルばんせいで、それぞれ分けて講師を招聘したりすることで、参加者が体験できる機会を増やしていきたい。

## 「スマイルばんせい（冬）」

### 1 趣旨

家族で体験活動を楽しむことを通して、親子でのコミュニケーション促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。

### 2 期日

令和6年1月28日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

461名（大人221名、小学生161名、未就学児79名）

### 5 活動内容

本事業は福島県内の3歳から小学2年生までを含む家族を対象に開催した。

屋外ではそり遊び、スノーチューブ、スノーシュー、スノーラフティング、雪遊び、たき火体験のブースを設置し、冬季ならではの活動プログラムを楽しめるようにした。また、屋内でも赤べこ絵付け体験、ばんせい探偵団、ニュースポーツのブースを設置し、親子で一緒に体験活動を行った。

### 6 成果と課題

#### (1) 成果

本事業では、降雪地域の特徴を生かした屋外体験ブースを充実させたことで、郡山市、福島市、いわき市からの多くの参加者が見られた。参加者からは「親子でなかなか体験できない雪遊びができて、子供たちが喜んでいました。」「家族で雪遊びを思う存分できて、楽しかったです。」「楽しくて盛り沢山でとても楽しかったです。」などの感想が寄せられ、降雪の少ない地域の参加者に楽しんでもらうことができた。特にスノーラフティングでは、初めての体験で90%以上満足したという感想が多く見られた。

未就学児も参加するため、筆を使った赤べこの絵付け体験を油性カラーペンを使った活動に変更し、親子で活動できるようにした。参加者からは「油性カラーペンで比較的簡単に絵付け体験ができるので、親子ともに楽しめました。」「オリジナルの赤べこができました。」「世界で一つの作品ができました。」などの感想があり、親子のコミュニケーションの機会を充実させることができた。



#### (2) 課題

それぞれのブースの体験活動を行う際に、「どのようにブースに行けばよいか分からなかった。」「活動ブースの場所が分からなかった。」という感想があった。家族で体験活動を楽しむ時間を十分に確保するために、案内板を各所に設置するとともに、参加者動線や各ブースにマップを閲覧できるQRコードや親子で観察できる鳥や植物の情報のQRコードを設置しておく。情報の共有や参加者のスムーズな移動をできるようにすることで、親子のコミュニケーションをより促せると考える。

### 3 青少年教育指導者等の養成事業

#### (1) ボランティア養成・研修事業「ばんボラセミナー」

##### 1 趣旨

国立青少年教育振興機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

##### 2 期日

令和5年5月20日（土）～21日（日）

##### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

##### 4 参加者

44名（高校生9名、専門学校生1名、短期大学生6名、大学生28名）

##### 5 主な活動内容

###### (1) 青少年教育の理解（講義）

常磐大学の松橋義樹氏を講師にお招きし、青少年教育の発達段階に応じた体験活動の効果や意義について講義をいただいた。参加者からは「青少年教育の現状や課題について知ることができ、体験活動が必要不可欠であることが分かった」などの感想が寄せられた。



###### (2) 青少年教育施設におけるボランティア活動（講義）

磐梯青少年交流の家のボランティア活動内容について、磐梯青少年交流の家の先輩ボランティアが進行して、参加者が話を聞く時間を設定した。参加者からは「先輩ボランティアと話したり一緒に活動したりして、ボランティアをやる気持ちが強くなった」等の感想が寄せられた。

###### (3) ボランティア活動の技術（演習）

演習では、野外炊飯倉庫内の用具の配置や釜戸を使って薪に火を付ける際のポイントや安全上の留意点等について説明を受けた後、野外炊飯棟でカレー作りを行った。参加者からは「ただ外でカレーを作るのではなく、どのポイントに気を付けるのか、考えながら作ることができた」などの感想が寄せられた。



##### 6 事業の成果と課題

###### (1) 成果

- 先輩ボランティアから、ボランティア活動についての体験談や活動を通して学んだことを聞くことで、参加者はボランティア活動についての具体的なイメージをもち、今後のボランティア活動への意欲を高めることができた。
- アイスブレイクや野外炊飯等の演習で参加者同士が一緒に活動する時間を十分に確保する構成にしたため、初めて会った参加者同士がスモールステップでコミュニケーションをとることができた。



###### (2) 課題

- 野外炊飯を経験している参加者も多く、参加者の中には動画には確認しながら活動をする者もいた。そのことによって成功体験はできるが、失敗から学ぶ機会があまりなかった。ボランティアとして事業に携わった際に、児童のつまづくポイントを自ら体験できるように活動を意図的に設定したい。

## 「ばんボラセミナーin 水戸生涯学習センター」

### 1 趣旨

国立青少年教育機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

### 2 期日

令和5年6月25日（日）

### 3 会場

茨城県水戸生涯学習センター（茨城県水戸市三の丸1-5-38）

### 4 参加者

19人（高校生13名、大学生3名、大人3名）

### 5 主な活動内容

#### （1）青少年教育について（講義）

青少年教育の発達段階に応じた体験活動の効果や意義について講義を行った。参加者からは「それぞれの年代（幼児・小学低／高学年生・中学生）への接し方を知ることができた。」「教育事業は参加者が主役だという認識を忘れないことが大切だと感じた。」などの感想が寄せられた。

#### （2）ボランティア活動の意義（講義）

ボランティア活動について、磐梯青少年交流の家での教育事業内でどのように捉えているかを例にして講義を行った。参加者からは「ボランティアは参加者にとって身近な存在であることがわかった。」「ボランティアのとしての繋がりが大切だと改めて感じた。」等の感想が寄せられた。

#### （3）ボランティア活動の技術（演習）

演習ではテント設営を室内で行った。参加者同士で声を掛け合いながらポールを伸ばしたり、フライシートを掛けたりしてドーム型テントを設営することができた。参加者からは「（参加者へ）指示をすることの大切さを実感した。」「どのポイントで気を付けるのか、考えながらテント設営ができた。」などの感想が寄せられた。また、本の読み聞かせの実習では読み聞かせの対象をどこに絞るか、本の持ち方やめくり方等について講義を聞き、グループになって参加者同士で読み聞かせを行った。参加者からは「自分が思っていたよりも早口になってしまった。難しい。」「ページをめくる際の手の動かし方や本の支え方は勉強になった。」等の感想が寄せられた。



### 6 事業の成果と課題

#### （1）成果

- ・ 写真や映像を使った講義だけでなく、実際の職員からの体験談や活動を通して子供たちの変容を聞くことで、参加者はボランティアに対する心構えや子供との接し方を学ぶことができた。
- ・ アイスブレイクやテント設営、読み聞かせでは、説明だけでなく実際の体験を入れることで、参加者は事業の際のテント設営や絵本の読み聞かせの有効な方法を知ることができた。

#### （2）課題

- ・ 読み聞かせの際に、著しく分量が多かったり、少なかったりして参加者の読む時間にばらつきがあり、他のグループと活動時間に差が出てしまった。参加者への事前連絡で5分程度の分量の絵本の持参等の呼びかけをするなど、参加者への情報提供を丁寧に進めたい。

## (2) ボランティア研修・自主企画事業「ボランティア自主企画（磐梯秋のワクワク森探検）」

### 1 趣旨

国立磐梯青少年交流の家で活躍する法人ボランティアが主体となって教育事業を行うことにより、青少年教育ボランティアとしての自覚や自主性を育むことを目的とする。

### 2 期日

令和5年7月8日～10月21日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

11名（自主企画担当ボランティア7名、事業ボランティア4名）

### 5 主な活動内容

#### (1) ボランティア自主企画 立案（自主企画担当ボランティア：大学生2名、高校生1名）

学生が教育事業の企画を行うにあたり、まず当交流の家の企画指導専門職による事業の企画方法についての講義を受け、ねらいの立て方やプログラムの選定方法等を学んだ。その上で、事業に参加する子供たちにどのようなようになってほしいのか予想像を立てさせ、そのためにどんなプログラムが必要か検討を行った。協議の結果、10月1日に「磐梯秋のワクワク森探検」を開催すること決定した。

#### (2) ボランティア自主企画 広報物の作成（自主企画担当ボランティア：大学生5名、高校生2名）

「磐梯秋のワクワク森探検」のプログラム内容をZOOM会議システムで話し合い、チラシ作成においては、参加する子供たちがイメージを持てるような表現になっているか、保護者にも日程や準備物などの見通しがもてる表記かどうか等、参加対象と同じ年齢層の子供を養育している職員から助言をもとめて作成した。

#### (3) ボランティア自主企画 実地踏査（自主企画担当ボランティア：大学生2名）

「磐梯秋のワクワク森探検」で行うプログラムを、自主企画担当ボランティアで実際に行った。その後で事業当日の安全管理やスムーズな運営方法について話し合った。また、野外炊飯を行う中で焚き火台の使用法や食材の調理方法について確認し、制作物や野外炊飯が参加対象の発達段階やニーズに適合しているかを検討して、子供たちに分かりやすく教えるための説明方法の確認をした。



#### (4) ボランティア自主企画 当日（自主企画担当ボランティア：大学生3名、高校生1名）（当日ボランティア：大学生2名、高校生2名）（自主企画事業参加者：未就学児7名、小学生16名、大人18名）

「季節に合わせた体験活動を通じて家族で料理をしたり、交流の家の敷地内の森の中で収集した自然物で工作したりしながら、磐梯の自然に親しんでもらうとともに親子の絆を深める」というねらいのもと、日帰りの事業を行った。当交流の家の豊かな自然を知る散策や親子で共同作業する野外炊飯、フォトフレーム製作などのプログラムを行った。



### 6 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・実施後のアンケートには「見通しがもてる活動で、子供たちが率先して動く姿が見られた。」「親子で参加できる森探検は新鮮でした。」といった子供の成長の発見や交流の家の豊かな自然を認知して頂いた感想が多いことから、自主企画担当ボランティアの設定したねらいを達成することができた。
- ・自主企画担当ボランティアは当日ボランティアへの助言も積極的に行い、スキルアップに繋がった。

#### (2) 課題

- ・アンケートの中に「トイレ休憩の時間や目安で構わないが終了時間の提示があるとよかった。」「スケジュールの都合もあるが、子供に片付けする事を教えるための時間が欲しかった。」等の記述があったことから、活動と時間の明示や休憩時間の設定、活動の後片付けまでを活動としてプログラムを設定する必要があると感じた。

## 4 東日本大震災復興支援プロジェクト

「第9期福島子ども未来塾」第1回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年7月8日（土）～9日（日）

### 3 会場

- ・国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）
- ・猪苗代町内

### 4 参加者

40名（小学生34名、中学生6名）

### 5 主な活動内容

#### （1）猪苗代町、福島県の農業についての講話

講師から福島県や猪苗代町の農業の現状とこれからの展望についての講話を聞いた。塾生は耕作放棄地が増えたことによる問題点を知り、その解決案などを考えて発表した。また、現在、講師が会津の伝統工芸である漆器に注目しており、新しい取り組みについても話を聞くことができた。



#### （2）耕作放棄地と新しい取り組みについてのフィールドワーク

猪苗代町にある耕作放棄地と漆の木を植えている場所を実際に見に行った。塾生は現場を見たり、耕作放棄地の土を実際に掘ったりして、講義を通して知った農業の現状を目の当たりにした。



#### （3）農業体験（田んぼの草とり）

田んぼの草とりを行った。素足で田んぼに入ると、「気持ちいい」「不思議な感覚」といった声が聞こえた。稲の成長を妨げる雑草を手で一生懸命に取り除いた。また、田車という道具を紹介してもらった。田車を使うのはもちろん、見るのも初めての塾生がほとんどだったが、使い方をしっかりと聞き、丁寧に草とりを行っていた。



### 6 事業の成果と課題

#### （1）成果

- ・「耕作放棄地の土は硬くて、学校の花壇よりスコップが入らなくてびっくりした」「実際に耕作放棄地を見て、自分が大人になった時にはどうにかしたいと思った」というような意見があった。農業に関わるのが少ない都市部の塾生をはじめ、周りに多くの田園や畑が広がる地域の塾生にとっても、地元の福島県の農業について具体的に知ることができたのはとてもよい経験になった。
- ・体験で使う道具を塾生同士で声をかけ合いながら貸し借りしていた。「塾生と協力しての作業が楽しかった」という意見があり、短い時間の中でコミュニケーションをとり、仲を深めていた。

#### （2）課題

- ・用具の数や活動時間に限りがあるため、一人ひとりの体験の時間をもっと確保できるような日程を考えたい。

## 「第9期福島こども未来塾」第2回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年9月9日（土）～10日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

26名（小学生21名、中学生5名）

### 5 主な活動内容

#### （1）各種スポーツ

フラッグフットボール、フィールドホッケー、カバディ、陸上競技の4種類のスポーツを体験した。なかなか体験する機会の少ないスポーツが多く、塾生からも「経験したことのないスポーツに出会えて、どれも興味深かった」「フラッグフットボールでいっぱい動けて、協力プレーや作戦を立てる人など役割もあって良かった」「カバディの魅力が分かった」というような感想があった。



#### （2）ユニフォームづくり、チアづくり

スポーツ大会に向けて、各チームでユニフォームと応援旗や応援歌などのチアづくりを行った。各チームのメンバーが意見を出し合い、それぞれのユニフォームができた。また、メンバーの力になるような思いのこもったチアができた。



#### （3）スポーツ大会

フラッグフットボール、リレーの2種目を行った。フラッグフットボールではチームで作戦を立て、攻撃側・守備側ともに戦略を練りながら競い合った。誰がボールを持っているかわからないようにしたり、守備側に的をしぼらせないようにしたりと、お互いに考えを出しながら楽しんでいた。リレーでは1日目に学んで練習した走り方を実践し、今までよりも速く走ることができた塾生が多かった。応援にも力が入り、競技している仲間もより一層力を発揮していた。



### 6 事業の成果と課題

#### （1）成果

- ・「カバディは守り方の動き、フラッグフットボールでは相手をうまくだます技などに興味が湧きました」「チームで作戦を立てて戦うのが楽しかった」というような感想があった。ほとんどの塾生が初めて触れるスポーツだったので、初めて会ってから2回目でも必然的に仲間と協力し、塾生同士の仲がさらに深まった。
- ・「今度は学校でもやりたい」と今後の日常生活にも取り入れたいという

#### （2）課題

- ・そのスポーツの本当の楽しい部分まで行うには、時間が全然足りなかった。塾生や保護者にとっても変化が大きい回なので、2泊3日で組むのがよい。



## 「第9期福島子ども未来塾」特別回

### 1 ねらい

- (1) 農業体験を通して農業に関する福島県の現状を知り、学びを深め、自分なりの考えを持つ。
- (2) 収穫体験を通して、作物を収穫する喜びを知るとともに、農家の皆さんに感謝の気持ちを持つ。

### 2 期日

令和5年9月30日（土）

### 3 会場

猪苗代町内

### 4 参加者

21名（小学生19名、中学生2名）

### 5 主な活動内容

#### (1) 農業体験（稲刈り）

第1回で活動した田で「稲刈り」と「はさかけ」を行った。活動は2人一組のペアで行った。鎌を使って稲を刈った後にペアに渡し、10束程度になると協力して麻紐で束ねた。稲刈りはペアで交互に行った。束ねた稲は稲木に運び、講師にかけてもらった。塾生は「はさかけ」の様子を観察した。



### 6. 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・「実際に農機具と手で収穫してみて、お米の大切さを実感できた」、「実際に鎌を使った稲刈り体験がとても楽しかった」との回答があり、実際に稲刈り体験をしたことで、作物を収穫する喜びを知ることができていた。
- ・「1回目の雑草取りは大変だったけど、今回の収穫体験ではたくさん収穫することができて、とても楽しかった」、「食べるまでどれだけ手間がかかるかよく分かった」、「収穫の喜びや、夕飯時のご飯の感謝をすることも出来ていた」との回答から、楽しみながらも農家の皆さんや収穫物へ感謝の気持ちを持つことができていたことがうかがえる。
- ・「一緒に耕したみんなに会えること楽しみにしていた」、「学校以外の年齢も違う友達ができ楽しそう」などの回答から、参加者は未来塾でできた友人関係を楽しみにしていた。



#### (2) 課題

- ・アンケート結果から第1回で草むしりの活動をした田での収穫体験だったが、田植えは行っていなかったため、農業のイメージが収穫だけになってしまった参加者がいた。
- ・アンケートで「田植えがやりたい」、「脱穀もしてみたい」との要望があった。開墾から播種、収穫などの一連の流れがわかるような工夫を考えていきたい。



## 「第9期福島子ども未来塾」第3回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年10月7日（土）～9日（月）

### 3 会場

・相馬市内 ・浪江町内 ・福島工業高等専門学校

### 4 参加者

36名（小学生31名、中学生5名）

### 5 主な活動内容

#### (1) 相馬市の震災学習

相馬市の磯での磯ガニ釣り体験、防災緑地散策、漁協など海沿いの施設の見学、語り部による講話を通して、震災について学びを深めた。また、震災前後の地域産業の比較から産業の復興の様子を学んだ。



#### (2) 浪江町の震災学習

浪江町にある震災遺構や産業団地の見学やワークショップを通して、震災について学びを深めた。ワークショップでは福島未来について意見を出し、話し合ったことで、自分がこれからどのような行動をすればよいか考えるきっかけになった。



#### (3) 福島工業高等専門学校での新しい技術の実験・体験

福島工業高等専門学校を訪問し、災害が起こる原理について講義・実験をし、どのような対策をすればよいか考えた。



### 6 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・「震災で被災した小学校を目の当たりにして自然災害の恐ろしさを実感した」など、実際の状況を塾生が自分の五感を使って学ぶことで、災害の恐ろしさをあらためて知ることができた。また、「日頃からの準備が必要だと思った」など、復興の状況を知ったうえで、自分がこれから担う役割についても考えることができた。
- ・「山の模型を使い、より本物に近い実験をしたことで仕組みがわかった」「メタンガスはメタン菌によって食べ物などを全部分解してエネルギーになったり、残った液体は栄養にもなったりするから無駄がないと思った」など実験や観察をしたことでなぜそうなるのかを深く考えることができ、より具体的な対策や意見を出し、福島未来を考えるための話し合いが内容の濃いものになった。

#### (2) 課題

- ・「災害は怖い」「実験が楽しい」で終わってしまう塾生も少なからずいた。体験したことから次のステップに考えを進めたり、実際に行動したいことを考えたりするための時間を設定したい。

## 「第9期福島子ども未来塾」第4回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年11月3日（金）～5日（日）

### 3 会場

・国立磐梯青少年交流の家 ・会津若松市 ・三島町

### 4 参加者

36名（小学生31名、中学生5名）

### 5 主な活動内容

#### (1) 救急法・応急手当

日本赤十字社福島県支部の方から救急法と応急手当の方法について学んだ。活動班ごとに人形への胸骨圧迫やAEDを使用した救急法、塾生同士で三角巾を用いた応急手当の実践などの活動に取り組んだ。



#### (2) 歴史散策と伝統工芸体験

会津若松市の飯盛山、鶴ヶ城での歴史散策と三島町での伝統工芸体験を行った。飯盛山では会津若松市教育委員会文化課の方から白虎隊や戊辰戦争の話聞き、鶴ヶ城では天守閣の見学などを行った。伝統工芸体験では野山で採取された植物（ヒロロ）で縄を編み、その縄を桐のコースター上に丸めて入れて完成させた。



#### (3) 福島の未来について考えるワークショップ

日本青年会議所の方による福島の未来について考えるワークショップ、講話を行った。講話では福島の現状について話を聞き、今の子供たちに何が求められているかを知った。その後、福島の未来について、塾生同士がお互いに意見を出し、自分たちが何をすればよいか考えた。



### 6 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・歴史散策と伝統工芸体験を通して「福島にもっと興味がわいた」「未来について深く考えた」などの前向きな考えを持つ塾生が増えた。
- ・「心肺蘇生は胸骨あたりを押し込むので、大変な作業だと思った」など、災害時における救助法として胸骨圧迫の力加減やAEDの正しい使い方を知った。また、ワークショップを通して「みんなで福島の未来について考えることができた」など、これからの福島について考える機会を持つことができた。

#### (2) 課題

- ・伝統工芸体験では単調な作業に飽きてしまったり、上手にできなかつたりする子供たちへの声かけや意欲を継続する工夫を考えておく必要がある。

## 「第9期福島子ども未来塾」第5回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和5年12月9日（土）～10日（日）

### 3 会場

- ・国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

36名（小学生30名、中学生6名）

### 5 主な活動内容

#### (1) チームフラッグづくり

チームごとにチーム名、メンバー、チームのロゴなどを入れたチームフラッグづくりをした。チームのメンバー同士でお互いにキーワードを出し合い、自分たちが目指すチームの形を工夫して表現していた。



#### (2) ダンスと合唱の練習

発表会に向けてダンスと合唱の練習を行った。始めにアイスブレイクを兼ねてHEART Globalスタッフと自己紹介をした。次にチームごとにテーマに沿って様々な状況を体で表現する活動に取り組んだ。その後、音楽に合わせてダンス練習や合唱練習、手話を使った表現活動をした。



#### (3) ダンスと合唱の発表会

職員や保護者に向けてダンスと合唱の発表会を行った。短時間の練習だったが、ダンスで動きをそろえるところや合唱のハーモニーがとても美しく仕上がった。



### 6 事業の成果と課題

#### (1) 成果

- ・「ダンスや運動が苦手だが、どんな事にでもチャレンジしてみようという気持ちがあまれた」などダンスが初めてだったり、苦手だったりという塾生が多い中、しっかり振り付けを覚え、大勢の前で恥ずかしがらずにダンスをしている姿が見られた。仲間とともに何か1つのものを作りあげる学びが、福島県の未来を明るくするために行動できる気持ちを育んだ。
- ・ダンス、合唱、手話などをお互いに教え合い、みんなで向上していく様子が様々な場面で見られた。
- ・「今までに見たことのない生き生きとした様子で体を動かす子供の姿を目にする事ができ、感無量でした」など、保護者は自分の子供が未来塾で頑張っている姿や、生き生きと活動している姿を見ることができた。

#### (2) 課題

- ・実施場所の広さなど言葉では伝わりにくいところがあるので、毎年施設見学を行い、直接打合せをする必要がある。
- ・今回は冬期間の開催だったが、体育館のような広い活動場所では暖房を入れても寒いので、開催時期については夏や秋で日程を調整したい。

## 「第9期福島子ども未来塾」第6回

### 1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知り、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

### 2 期日

令和6年2月3日（土）～4日（日）

### 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

### 4 参加者

36名（小学生30名、中学生6名）

### 5 主な活動内容

#### （1）雪中ハイキング、スノーシュー体験

交流の家の研修指導員による雪中ハイキングとスノーシュー体験を行った。雪中ハイキングでは、雪上にある小動物の足跡やふんなどを見つけることができた。スノーシュー体験では、積雪時は長靴やスノーブーツでは歩きにくいことを知り、スノーシューをはくことで格段に歩きやすくなることを実感した。



#### （2）調べ学習発表会

自分で決めたテーマについて調べ、まとめたことを仲間に向けて発表した。スケッチブックで発表した塾生は図や写真を使い、文字を大きくするなど見やすくする工夫をしていた。パワーポイントを使って発表した塾生はアニメーションをつけ、聞き手を引きつける工夫をしていた。仲間の発表を聞き、お互いに質問し合うなどして学び合う時間になった。



### 6 事業の成果と課題

#### （1）成果

- ・「寒い土地柄を生かした雪を使った活動があつてよかった」「たくさんの友達と雪遊びをするという貴重な経験ができた」など、雪に触れることが少ない地域の塾生も多く、冬ならではの活動を楽しむ声が多くあった。
- ・「これからの生活に活かしていこうと思える発表があつた」「身近なことでSDGsに参加できることがあると知り、緑のカーテンなど今年の夏に実践したいと思った」など、仲間の発表から自分の今後の行動を考える塾生が増えた。また、「発表を通じて、自分の意見や考えていることを人に伝える事ができてよかった」と、自分の考えを自分の言葉で誰かに伝える大切さを経験することで、主体的に行動できる意識づけを図ることができた。
- ・塾生一人ひとりがこれから頑張りたいことや目標を持つことができた。

#### （2）課題

- ・発表の方法を塾生に選ばせたり、一人ではなくグループでの発表にしたりするなど、塾生の個性に応じて柔軟に対応できるようにしたい。

## 5 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業

### ○事業目的

「体験の風おこそう」運動の普及啓発のために、福島県内の多くの子供たちに体験活動の楽しさを提供するとともに、保護者に体験活動の必要性や重要性を発信する。

#### (1) スマイルばんせい（詳細はP. 21参照）

#### (2) 地域イベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動

##### ① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、地域のイベントに積極的に出展を行い、体験活動の重要性について広く発信をしていく。

##### ② 期日 イベント名【場所】

- ・令和5年7月 1日（土）猪苗代マルシェ【猪苗代町天神浜】
- ・令和5年7月16日（日）学びいな夏祭り【猪苗代町運動公園】
- ・令和5年7月29日（土）磐梯まつり【猪苗代町運動公園】
- ・令和6年1月13日（土）十三日市【猪苗代町中央商店街通り】

##### ③ 成果

新型コロナウイルス感染症対策も緩和されたため、各種イベントにおいて体験の普及啓発活動を実施した。子供たちや保護者、地域の方々に体験の機会を提供したことにより、あらためて体験活動の楽しさや重要性を実感していたくとともに、地域力向上の推進に努めることができた。



猪苗代マルシェ（R5.7.1）

#### (3) 「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン

##### ① 事業目的

子供の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる「早寝早起き朝ごはん」国民運動を積極的に展開することにより、子供たちの「よく体をうごかし、よく食べ、よく眠る」という当たり前で必要不可欠な生活習慣を保護者や子供、社会全体に普及啓発をしていく。

##### ② 期日・会場・参加人数

- |                |                 |     |
|----------------|-----------------|-----|
| ・令和5年10月30日（月） | 湯川村立ゆがわ幼稚園      | 91人 |
| ・令和5年11月12日（日） | 会津若松市リオン・ドール保育園 | 51人 |
| ・令和5年11月14日（火） | 湯川村立湯川村保育所      | 25人 |

##### ③成果

福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会に所属いただいた湯川村教育委員会やリオン・ドールの管轄している幼稚園や保育所、保育園に募集案内を配付し、上記3ヶ所で「早寝早起き朝ごはん」国民運動を実施することができた。

今年度も絵本「よふかしおにとはやねちゃん」の紙芝居を使った読み聞かせ、早寝早起き朝ごはん体操、記念写真撮影の提供をした。参加した子供たちや職員の方々に「早寝早起き朝ごはん」の大切さを普及啓発することができた。



#### (4) 子どもゆめ基金説明会

##### ① 事業目的

より多くの方々や青少年団体などに、子どもゆめ基金の趣旨を理解していただくとともに、申請の流れや申請書の書き方などの実務について知識を深めていただく。

##### ② 期日・場所

- ・令和5年 9月 9日(土) 吾妻学習センター
- ・令和5年 9月10日(日) 水戸生涯学習センター



ゆめ基金説明会 (R5. 9. 9)

#### (5) その他(猪苗代湖の自然を守る会との連携)

##### ① 地元小学校の総合学習支援

- ・令和5年6月 1日(木) 翁島小学校3～6年「猪苗代湖清掃」
- ・令和5年6月14日(水) 翁島小学校5年「猪苗代湖の水質調査1」
- ・令和5年6月19日(月) 翁島小学校5年「猪苗代湖の水質調査2」
- ・令和5年7月13日(木) 翁島小学校4年「川の水質調査」舟津川
- ・令和5年9月 5日(火) 翁島小学校6年「アサザの移植」
- ・令和5年9月12日(火) 翁島小学校3～6年「ヒシ回収活動」
- ・令和5年9月29日(金) 翁島小学校5・6年「湖岸のヨシ刈り」
- ・令和6年1月30日(火) 翁島・緑・千里小学校2年「白鳥観察」
- ・令和6年1月31日(水) 翁島・緑・千里小学校1年「白鳥観察」



猪苗代湖の水質調査  
(R5. 6. 19)

##### ② 猪苗代クリーンアクション2023の参加【計2回】

- ・令和5年4月22日(土)
- ・令和5年6月24日(土)

##### ③ ヒシ刈りボランティアとしての協力【計6回】

- ・令和5年8月 4日(金)
- ・令和5年8月11日(金)
- ・令和5年8月25日(金)
- ・令和5年9月 1日(金)
- ・令和5年9月 8日(金)
- ・令和5年9月15日(金)



ヒシ刈り (R5. 9. 15)